

平成28年9月
15号

自立からの風 だより

発行
障害者支援施設 自立生活訓練センター
兵庫県神戸市西区曙町1070 TEL 078-927-2727(代) FAX 078-925-9229



目次

- 1 表紙（職員集合写真）
- 2 平成28年度事業計画
- 3 平成27年度決算報告、自立生活訓練センター所長挨拶
- 4 異動・復帰職員紹介、盆踊りポスター入賞
編集後記

異動・復帰職員紹介



4月にたまつあけぼの障害者地域生活支援センターより異動となりました藤本です。訓練課は、平成22年度以来、6年ぶりになります。当時を思い出しながら、初心にかえり業務に励みたいと思います。よろしくお願いします。



支援員 柏木 敏昭

歴史、伝統のある平屋建ての万寿の家から、センター入り口に輝きそびえ建つ♪！3階建ての自立訓練課に参りました。日々、利用者皆様方の訓練、支援にお役に立つようにとの気持ちいっぱい……1階から3階、3階から1階を「蝶のように舞って」おりますっ＼(^o^)/



支援員 古部 歩美

4年前に産前産後の休みを頂き、5月に職場に復帰しました古部歩美です。現在スクワットを毎日50回行うのを頑張っています。身も心も引き締めて頑張っていきますのでよろしくお願いします。



看護師 長崎 奈津子

4月に異動で、自立生活訓練センターにきました。毎日新鮮な気持ちで勤務させていただいています。私自身、訓練中の部分もありますが、皆様の健康と自立に向けてお役に立てればと思います。宜しくお願いします。



支援員 橋本 陽子

この3月から2階の支援員として勤務しております。以前はあけぼのの家で勤務しておりました。今までの知識や経験を生かし頑張りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願いします。



支援員 寅屋 淳平

事務局から異動してきました寅屋と申します。支援員としての業務から2年以上離れておりましたので、色々ご迷惑等をおかけすることがあるかと思いますが、切磋琢磨して頑張りますのでよろしくお願いいたします。

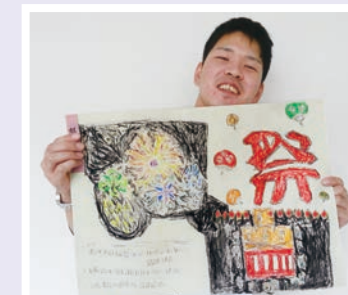


支援員 人見 夏花

記憶力の衰えを感じている今日この頃、また新たな名前の暗記に四苦八苦。しかし、利用者の方々が、地域社会へ戻られるための微力ながらも精一杯の支援ができればと思っています。よろしくお願いします。

第47回総合リハビリテーションセンター 盆踊り大会 ポスター入賞!!

毎年、夏の風物詩である盆踊り大会が、2016年8月2日(火)に開催されました。盆踊り大会を盛り上げる必須アイテムの一つが、皆さんのオリジナリティ溢れる広報ポスターです。今年も訓練課からたくさんの方が力作を応募してくださいました。珠玉の作品の中で、なんと宮崎風太さんが努力賞を受賞されました!! 絵が大変上手な宮崎さん、力強さを感じる素敵なポスターです! 皆さんの作品は訓練室に飾らせて頂いていますので是非ご覧ください。来年もどしどしご応募お待ちしております。



編集後記

今年度も職員が入れ替わり、新体制となつてからはや半年が過ぎました。遅くなりましたが、新しい職員の意気込みをご紹介させていただきました。次回はプログラムの内容等をたくさん紹介できればと思います。

津田 明子

平成27年度 自立生活訓練センター決算報告

収入の部			
勘定項目	決算額	勘定項目	決算額
障害福祉サービス等事業収入	321,292,903	施設整備等収入	0
受託事業等収入	690,800		
経常経費補助金収入	4,520	繰入金収入	49,703,000
経常経費寄附金収入	300,000		
自動車訓練収入	2,505,000	その他の活動収入計	49,703,000
過年度収入	600,021		
その他収入	141,310		
経常収入計	325,534,554	収入合計	375,237,554
支出の部			
勘定項目	決算額	勘定項目	決算額
人件費支出	205,808,323	積立資産支出	26,656,000
事業費支出	82,013,411	繰入金支出	7,345,000
事務費支出	46,987,610		
その他の支出	6,678	その他活動支出計	34,001,000
経常支出計	334,816,022		
		支出合計	368,962,822
固定資産取得支出	145,800		
		前期末支払資金残高	△ 4,723,294
施設整備等支出計	145,800	当期末支払資金残高	1,551,438

目標の達成に向けて

自立生活訓練センター所長 志水 満



今年の夏は、猛烈に暑い日々が続きましたが、リオオリンピックでの日本選手の活躍で更に熱く燃える夏でもありました。9月からはパラリンピックが開会しますが、当センターも訓練に使用している「兵庫県立障害者スポーツ交流館」の職員である別所キミエさんが車椅子卓球日本代表選手として、パラリンピックに出場されます。まだまだ熱い応援の日々が続きそうです。アスリートが能力の限界を超えて記録に挑む姿は、勝敗に関わらず尊いものですが、当センターにおいても利用者の皆様が自身の目標の達成に向けて熱心に訓練プログラムに取り組まれています。

先日、ある利用者の方から「高次脳機能訓練プログラムで発表するので自立訓練センター退所後の状況を教えて欲しい」という依頼を受け、回答させていただく機会がありました。紹介しますと、昨年度、当センターから退所（通所含む）された方は、92名でした。その方達の利用開始時に最も多かった目標（複数回答）は「心身機能の向上（65％）」、次に「復職・就職（46％）」、「自動車運転再開（41％）」、「単身生活の実現（19％）」となっています。医療的なりハビリ終了後も最大限機能回復したい、社会生活に復帰したいという強い意欲や目的意識を持って利用いただいています。

退所時の状況ですが、住まい・生活の場所として最も多いのは「家庭復帰（69％）」です。次に「単身生活（16％）」、「施設入所（12％）」、「入院（3％）」となっています。

進路・日中活動の状況は、「復職・就職・進学（30％）」、就労継続支援等の「障害福祉サービス利用（22％）」、「介護保険サービス利用（13％）」となりました。

利用者の皆様の状況は様々ですが、当センターでの機能訓練や生活訓練に基づいた各種支援を通じて、進路についても多方面から情報収集し、利用者本位の立場で共に考え、関係機関の皆様と連携することで、多様な進路確保に繋がっています。

今年度もこのような当センターの機能や特長をお伝えするために、回復期リハビリ病棟を持つ医療機関を訪問し、医療ソーシャルワーカーの方等に対して、当センターが自立訓練を主体とした全国的にも貴重な施設であることや、介護保険には無い自立訓練（機能訓練・生活訓練）の有効性をお伝えする機会を持たせて頂いています。

当センターにとっての目標は、施設の機能や役割を充分発揮して利用者本位の支援を実践することです。関係機関の皆様におかれましても、引き続きご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成二十八年年度
自立生活訓練センター
事業計画

I 趣旨

自立生活訓練センターは、総合リハビリテーションセンターにおける社会リハビリテーションの中核施設として質の高い訓練、支援を提供するとともに、引き続き利用者確保や施設設備等の改修にむけた調整を進め、経営基盤の安定強化に取り組む。

また、新経営10か年計画基本計画（平成二十一年度～三十年度）及び新経営10か年計画第3期実施計画（平成二十七年～三十年度）、兵庫県社会福祉事業団平成二十八年事業計画に基づき、以下の重点目標及び基本方針に基づき、事業を展開する。

〔基本計画における重点目標〕

- 1 利用者や地域から信頼され選ばれる施設を目指す
 - 2 リハ医療と障害・高齢者福祉の牽引役を目指す
 - 3 経営基盤の自立化に裏付けられた自律経営を目指す
- 〔基本方針の五本柱〕
- 1 利用者本位のサービスの提供
 - 2 地域で支え合う仕組みづくり
 - 3 医療と福祉の連携による事業推進
 - 4 人材育成と働きがいのある職場づくり
 - 5 経営基盤の安定・強化

II 事業計画

1 利用者本位のサービスの提供

総合リハビリテーションセンターの社会リハ部門を担う施設として、制度改正に的確に対応していく。そして、一人でも多くの利用者の復職や社会復帰が実現できるよう訓練プログラムの充実を図る。

また、虐待防止・人権擁護に向けた取り組みや専門的な知識や技術の習得を推進する。

（1）利用者本位で質の高いサービスの提供

施設機能の充実

①障害福祉サービス制度改正への対応

○訓練プログラム実施内容の充実

②障害者自動車運転訓練の充実

③精神障害者の支援技術の習得・実践
利用者の人権と個人の尊厳に配慮したサービスの提供

①人権の擁護

○虐待防止マニュアルを踏まえた虐待防止研修の実施

○管理監督職及びサービス管理責任者等による身体拘束廃止に向けた業務管理

○あったかサポート実践運動の推進

②サービス評価結果を踏まえた充実した支援の実施

ウ 利用者にとって安全で安心なサービスの提供

①リスクマネジメント体制の推進

○安全・安心総点検の実施（年2回）

○地震・風水害・火災等を想定した避難訓練の実施

（2）障害者の自立支援と障害者雇用の推進

ア 障害者の自立支援の推進

①障害者の芸術文化活動支援事業の推進

○「兵庫県障害者芸術・文化祭」への参加

②介助犬及び聴導犬認定等事業の実施

2 地域で支え合う仕組みづくり

事業団が持つ福祉・医療に関する多様な機能を活用して、障害者や高齢者が、地域で支え合い、自分らしく生きる、ことができる社会の仕組みづくりに取り組む。

（1）地域包括ケアシステムへの取り組み

ア 地域で安全・安心に暮らすことのできるサービスの提供

①神戸市自立支援協議会等との連携強化

②神戸市体験型グループホームモデル事業の実施

（2）地域の福祉人材の育成支援

ア 地域の福祉人材の育成

①人材バンク（講師派遣制度）の推進

（3）地域に開かれた施設運営

ア 施設機能の地域への提供

①社会貢献事業の推進

○地域健康相談の実施

○自動車安全運転教室「セーフティドライビングフェスタ」の開催

②公開セミナー・福祉教育等の実施と地域交流行事等の開催

実習生を積極的に受け入れ、福祉人材の育成に努める。

③施設運営協議会機能の充実・強化

④広報の推進

○施設の魅力を伝える情報発信

○ホームページ等広報媒体を活用した広報活動の推進

3 医療と福祉の連携による事業推進

医療・福祉の連携事業を先導的に実施するとともに、総合リハビリテーションセンター内の関係部署（リハビリ中央病院、高次脳機能障害窓口、職業能力開発施設等）及び外部関係機関（回復期リハビリテーション病棟、地域生活支援センター、各地域相談支援事業所等と連携し、医学リハから社会リハ、地域支援へ一連の継続的な支援体制の充実と地域への情報発信を推進する。

（1）医療・福祉の連携事業の実施

①高次脳機能障害の支援体制の確立

（2）リハ医療・福祉に関する専門的情報の発信

①事業団実践・研究紀要の発行

4 人材育成と働きがいのある職場づくり

医療、福祉人材の確保難の状況の下、事務局と協力した人材確保対策に積極的に取り組むとともに、働きがいのある職場づくりを推進する。

（1）人材の確保・育成

ア 自律型組織を担う人材の育成

①組織性・専門性研修等の効果の実施

②介護福祉士等の計画的育成、資格取得の推進

③専門職種連絡会の実施

（2）人事・組織マネジメントの強化

ア 健全な組織運営

①ガバナンスの推進

②情報公開・情報提供等による事業団経営の公正・透明化

③メンタルヘルス対策の充実

○外部相談窓口の設置（継続）

○研修の実施

○ストレスチェックの実施

④職員からの事業等に関する意見聴取の実施

○職員提案の実施

5 経営基盤の安定・強化

経営環境が大きく変化する中、人材、施設、ノウハウなどの資源を効果的に活用し、施設の機能を最大限発揮して、より多くの利用者に良質な満足度の高いサービスを提供するとともに、収支の改善を図り、将来の費用負担にも備えることができるよう安定的で堅実な運営に努める。

（1）事業推進体制等の強化と財務管理の徹底

ア 事業推進体制等の強化

①事業推進体制の強化

②事業目標管理（課題解決・目標達成のための取組み）の強化

年度当初に課題解決や目標達成のための具体的な取組み方策や評価指標などを事務局と共有し、定期的な進捗管理を行うこと等により取組みの強化を図る。

（2）自主経営（事業団立）施設の運営

ア 事業推進基盤の整備

①大規模改修計画の検討、実施

施設の利用者の生活環境の安全確保と安心した施設利用を継続するために必要な機能や内容等を検討し、適切な時期に実施するための準備を進める。

②施設の長寿命化のためのメンテナンス技能の習得や点検の徹底を図る。

○施設長寿命化に向けた取り組みの確立

事業毎の運営内容の充実等

イ 施設入所機能の発揮及び日中活動の利用促進

市町のサービス利用決定過程において、介護保険サービス優先の傾向が強まる中、介護保険には無い自立訓練の有効性を示す質の高い支援実践に取り組むとともに、従来から利用者の受入相談対応等で連携してきたリハビリ中央病院やその他の医療機関等との連携を強化し、福祉事務所等関係機関への働きかけを進めながら利用促進及び収支改善方策

・関係機関との連携による計画的な利用・入所調整

・利用者のニーズにあわせた支援プログラム等の提供

・業務の分析及び見直しによる効果的なサービス提供

・利用者の状況に応じた支援体制の強化（加算等の取得）等